

500名の大観衆に囲まれてオリエンテーリング！
フット0スプリント競技のインカレ開催に向けて試行大会が行われた。

インカレスプリント試行大会
2014年10月11日 福井県あわら市

結果女子

1	中村葉菜	0:13:45	早稲田大学 2
2	五味あずさ	0:13:58	金沢大学 3
3	砂田莉紗	0:14:08	横浜市立大 3
4	稲毛日菜子	0:14:11	お茶の水大 4
5	伊東瑠実子	0:14:15	東京大学 3
6	山梨 菜	0:14:48	金沢大学 3

結果男子

1	糸賀翔大	0:13:30	東京大学 4
2	松下睦生	0:13:40	京都大学 4
3	平野大輔	0:14:05	名古屋大学 4
4	小島拓也	0:14:14	東京大学 4
5	安中勇大	0:14:19	京都大学 4
6	山本遼平	0:14:27	新潟大学 4



インカレスプリント試行大会 女子優勝 中村葉菜(早稲田大学 2)
第一コントロールの周囲で選手を応援する観客。

インカレスプリントの模索

2014年3月に行ったインカレスプリント試行大会に引き続き、2014年10月にも試行大会が行われた。行われたのはインカレロング大会の前日。場所もインカレロングのモデルイベントの会場付近の公園である。



インカレスプリント試行大会 男子優勝 糸賀翔大(東京大学 4)

500名の観客に囲まれて

インカレスプリント試行大会で一番重視した点はどこか。それはテレイン

でもコースでもない、観客である。多数の観客に囲まれて「見られる中でレースを行う」ことこそがインカレスプリント試行大会の最大の価値としたイベントが行われた。

翌日に控えたインカレロングのモデルイベントほかに集まった学生たちを前に、各地区学連から選抜された者がスプリント競技を行った。

観客数がおおよそ500名はいただろうか。フィニッシュ地点だけでなく、コースの途中で多くの観客が詰めかけ、自校の走る姿に熱い声援を送った。

見せるための仕組み

今回はレースを観客に見せるための仕掛けが行われた。観客にはレース開始直前に無料でレース解説が配布された。この解説にはこれから行われるレースのコース図と、観戦ポイントが詳しく書かれている。これを手に観客はお目当ての選手を待ち受けて応援することができるのだ。

この観戦ガイドを配布する前に、選手は全員が別の場所に隔離され、それぞれレースの準備を行うように指示されていた。

残ったスプリント選手権の開催

2014年現在、フット0の世界選手権では5種目が行われている。歴史の古い順から書き出すと以下の通り。

1. ロングディスタンス
2. リレー
3. ミドルディスタンス
4. スプリント
5. スプリントリレー

5のスプリントリレー種目が行われるのは国別対抗戦のときくらいである。

JOAの主催する日本選手権大会は1-4が実施されている。日本学連では1-3が行われている。

そう日本学連ではスプリント選手権が行われていないのだ。世界学生選手権(WUOC)でもスプリント種目が行われている。

日本の学生オリエンテーリングを代表する組織として、これではいけないという声があり、いよいよ日本学連でもスプリント選手権を開催する模索が始まった。

この試行大会の結果を受けて日本学連ではインカレスプリント大会の実施についての議論を活発化させている。

(木村佳司)